

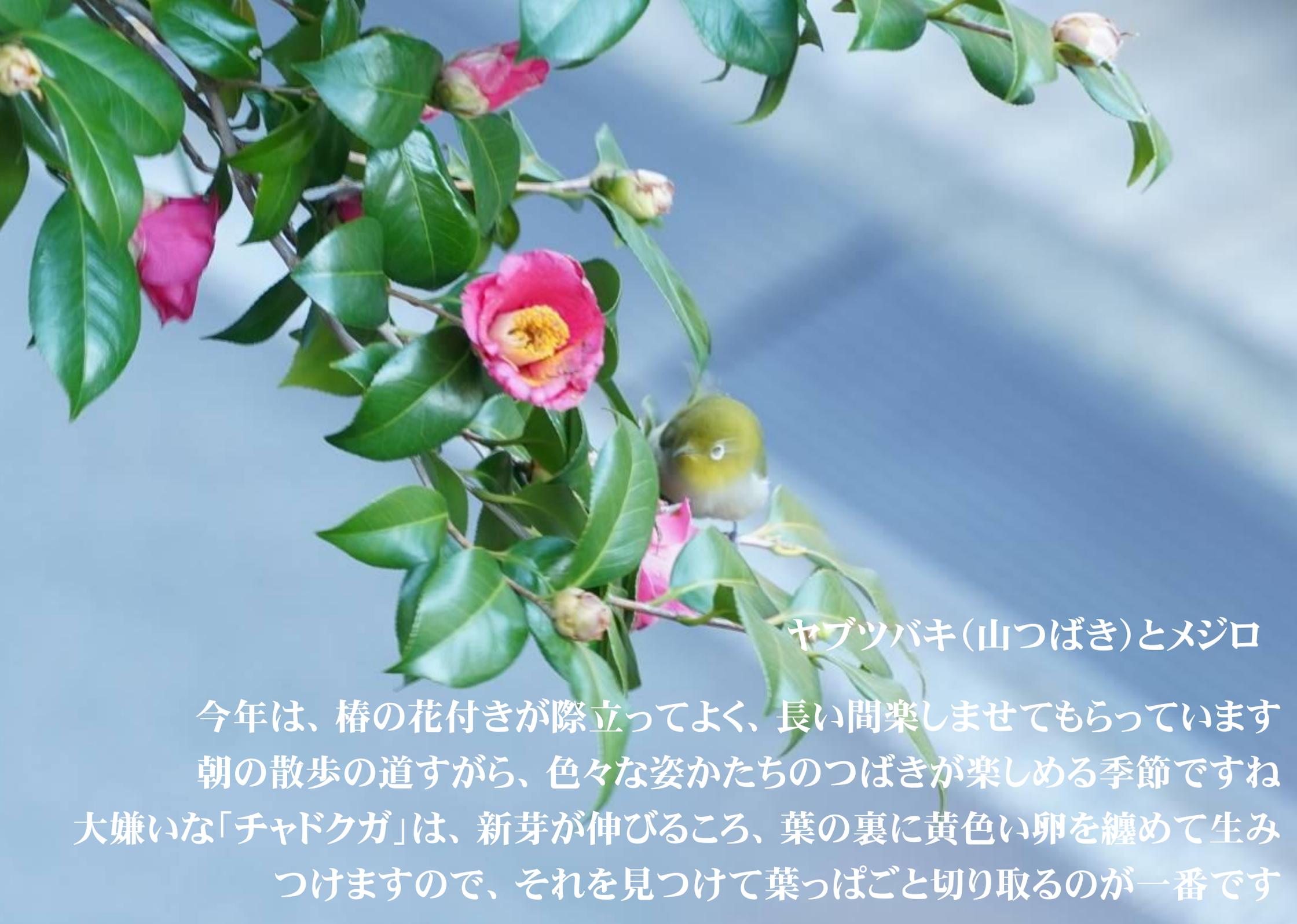
フォトエッセイ

# つばき三昧



2023年3月3日

島田祥生



## ヤブツバキ(山つばき)とメジロ

今年は、椿の花付きが際立ってよく、長い間楽しませてもらっています  
朝の散歩の道すがら、色々な姿かたちのつばきが楽しめる季節ですね  
大嫌いな「チャドクガ」は、新芽が伸びるころ、葉の裏に黄色い卵を纏めて生み  
つけますので、それを見つけて葉っぱごと切り取るのが一番です



「ヤブツバキ」

ピンクの5弁の花びら

花粉がすごいですね

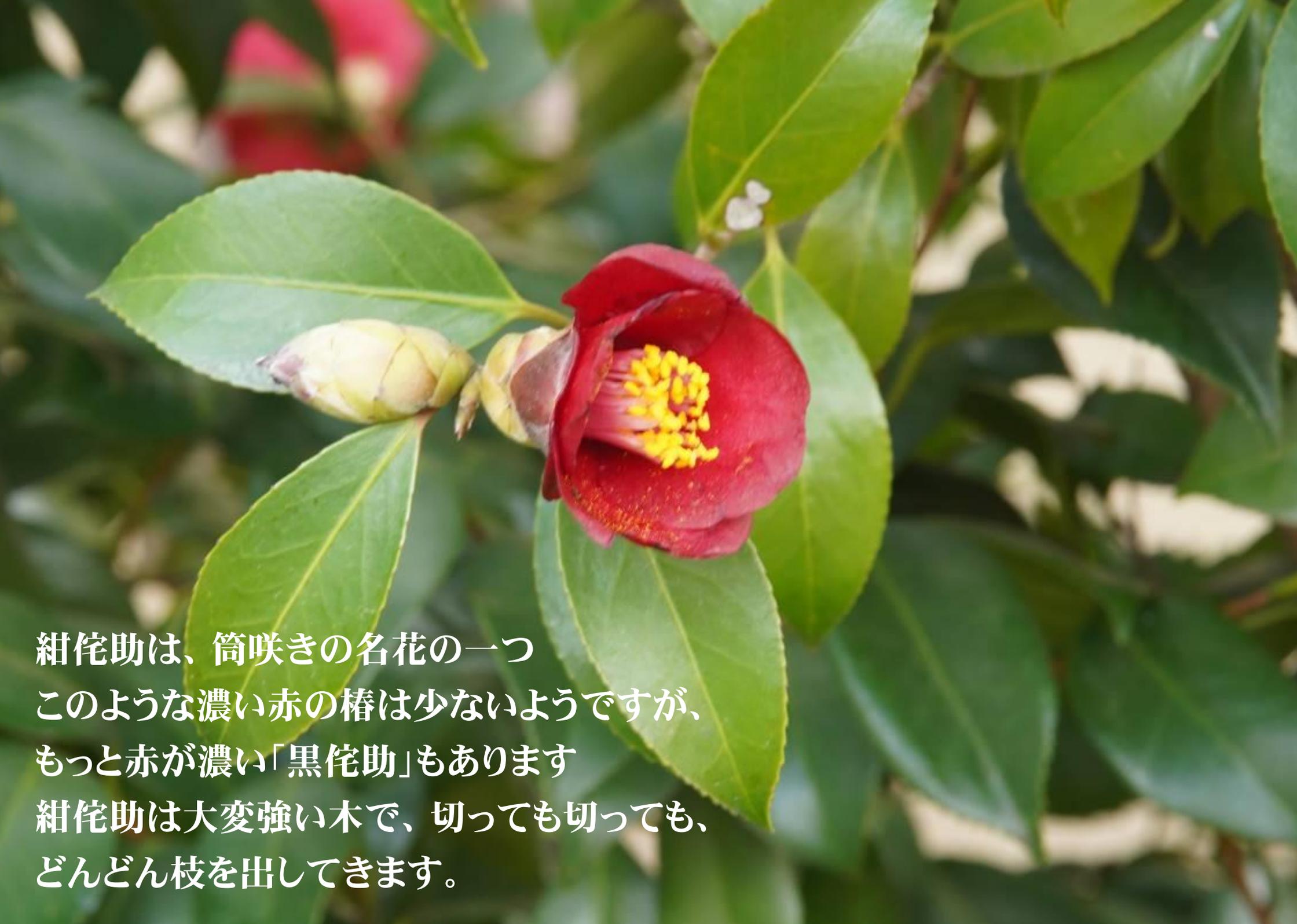
しかし、種は3個ですから

真ん中にあるめしべに、3個だけ付けば良さそうなものですが



「紺侘助(こんわびすけ)」

苗を買ってきて30年余り、立派な木になりました  
目を凝らすと、つぼみの数がハンパ無いです



紺侘助は、筒咲きの名花の一つ  
このような濃い赤の椿は少ないようですが、  
もっと赤が濃い「黒侘助」もあります  
紺侘助は大変強い木で、切っても切っても、  
どんどん枝を出してきます。



「玉の浦」

五島地方の玉の浦にあるヤブツバキの林の中で見つかった  
ヤブツバキの変種 白の覆輪が見事  
親木は、ご多分に漏れず  
穂先をどんどん切り取られて、今は無いそうです



「春風」

ほのかな香りがします

つばきと山茶花の交配で生れた花だと聞いています

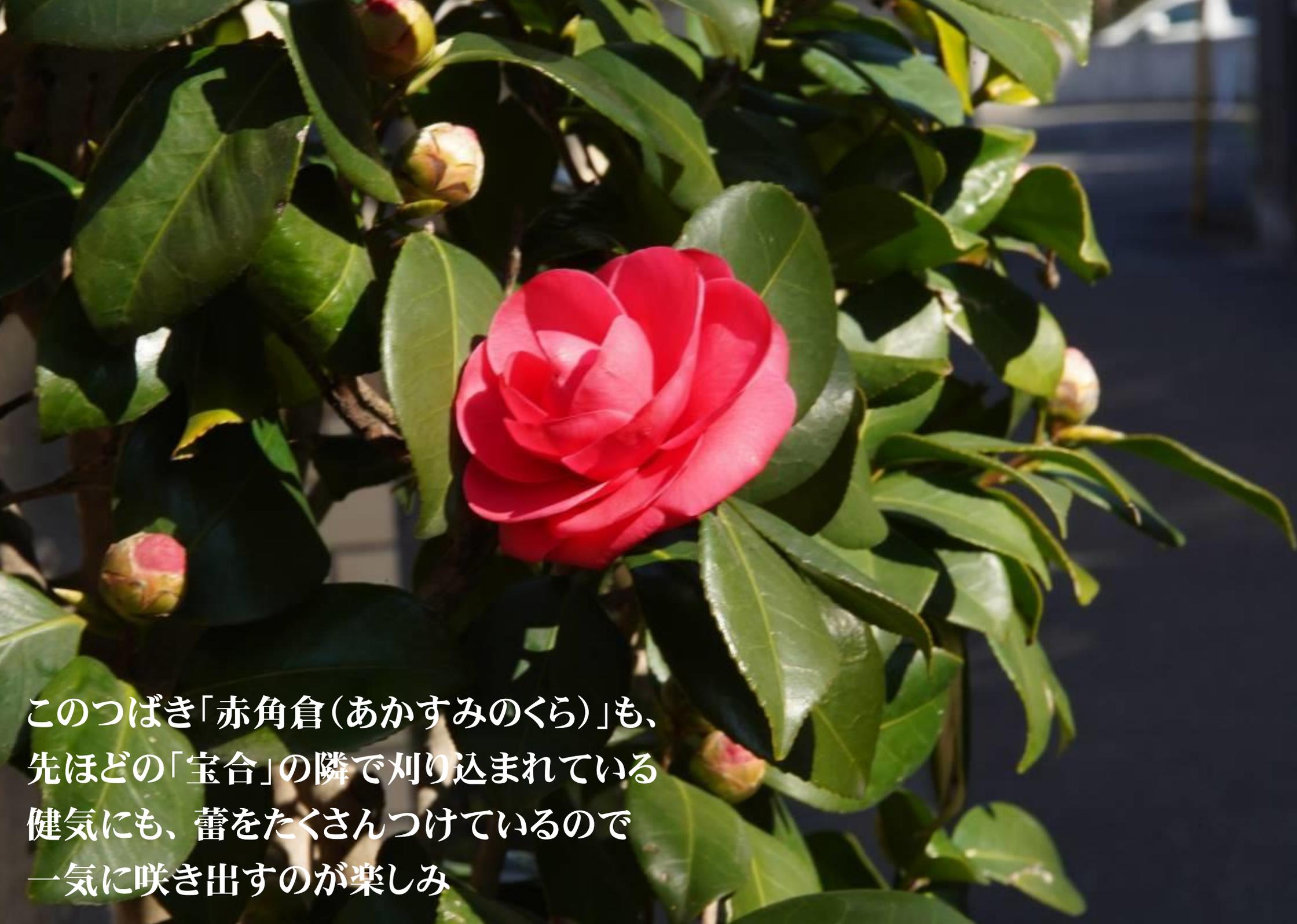


昨年、葉が茂って沢山の花をつけてくれました  
お礼に、肥料をたっぷりと…  
やりすぎて肥当たりさせてしまいました  
葉がほとんど落ちたのですが  
見事にここまで回復してくれました



「宝合」という、  
模様変わりの花をつけるつばき  
この木は、このように刈り込まれているので  
花は茂みの中に埋もれている  
ちょっと可哀想





このつばき「赤角倉(あかすみのくら)」も、  
先ほどの「宝合」の隣で刈り込まれている  
健気にも、蕾をたくさんつけているので  
一気に咲き出すのが楽しみ



「岩根絞」という

大きくて派手な花

お屋敷の庭で見つけて、望遠で無理やりゲット

結構見かけるので、人気が高いつばきの一つなのですね



「雛侘助(ひなわびすけ)」

同じお屋敷にこじんまりとした木で咲いていました



## 「白侘助」

紺侘助や雛侘助と同じく、茶華として使われているようです  
紺侘助の写真をあげたら、  
私は白侘助が好きですと言われたことがありました  
たしかに、紺侘助と違って、楚々としたところがありますね



## 「紅妙蓮寺」

花びらの表面が絞りのように見える

お気に入りのつばきの一つです

大船のフラワーセンターの椿園で種を拾い、育てたものです

今年ようやく、沢山の花を付けてくれました



「頂華(ちょうか)」

ちょっと小ぶりの、深紅の地厚な花びらの持ち主  
このつばきも、今年は、沢山のつぼみを付けてくれています



「氷室雪月花(ひむろせつげつか)」  
もうすぐ咲きます  
右の写真は、図鑑から  
これも、大船の種から育てたものです

A dark green ceramic bowl filled with water, containing two floating flowers. The bowl has a textured, slightly irregular rim. The water is clear, and the flowers are the main focus. One flower is a deep red color with a yellow center, and the other is a vibrant pink color with a yellow center. The background is a light-colored wooden surface.

枝から離れた花は  
水に浮かべると暫く楽しめます  
「紺侘助」と「玉の浦」



ヤブツバキを「つらつら椿」にしてみました  
花が落ちるとき、めしべは枝に残るので大きな穴が開いています  
そこに紐を簡単に通せます



学生時代の友人の「木彫画」

昨年の春「川越歩き歩き」で

紹介しました

さくらの木にコスモスを彫っています

左の絵皿は、その時のプレゼント。

10cmの大きさのものに

30分で彫り上げるそうです



テーブルの上で遊んでみました

あなたは、どの「つれつれ椿」がお好みでしょうか  
いろいろな椿を「つれつれ」しても楽しいかもしれません

簡単にできますので、作ってみてください。

ただし、1日しか持ちません

日本のつばきの品種は、1,200程あるそうです

それだけ、みなに愛でられ、身近なものなのですね

品種によっては気難しくて、なかなか花を付けて呉れなかったり

チャドクガの駆除に手を焼いたり、手がかかるところもありますが

楽しみようは沢山ありそう

よそ様のお庭のつばきを見て歩くだけでも、いいものではないでしょうか